2021年度　シラバス（授業要覧）

福祉学科　1年生

1-1

科　目	生活と倫理	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	中島　航	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人間の尊厳と人権・福祉理念について学び、人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から介護福祉士として支援できる基礎的な考え方を身につける内容である。		
到達目標	福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基礎となる倫理観を養うことができる。		
学習成果の評価基準	学びの理解や考え方が身についているか、適宜、小テストを実施して評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	福祉とは何か	福祉の意味を事前に調べる
2.	人間とは何か	テキストを読む
3.	人間の尊厳とは	テキストを読む
4.	利用者主体について	テキストを読む
5.	人権について学ぶ	テキストを読む
6.	人権思想の歴史的展開	テキストを読む
7.	福祉思想の変遷（1）　人は人をどう援助しようとしてきたか	テキストを読む
8.	福祉思想の変遷（2）　戦後の新たな福祉のあり方への模索	テキストを読む
9.	権利擁護について	テキストを読む
10.	権利擁護に関わる具体的な支援	テキストを読む
11.	自立の概念と多様性	テキストを読む
12.	自立とは	テキストを読む
13.	介護を必要とする人々の自立と自立支援	テキストを読む
14.	介護を必要とする人の尊厳の保持や自己決定の考え方（1）　尊厳の保持とは	テキストを読む
15.	介護を必要とする人の尊厳の保持や自己決定の考え方（2）　自己決定の考え方について	テキストを読む

教科書	テキスト：最新　介護福祉士養成講座　1　『人間の理解』　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	授業態度（30%）、小テスト（70%）
特記すべき事項	介護福祉士受験資格必須 実務経験：担当者は高齢者福祉施設における看取り支援について11年の実務経験を有しています
質問・相談等の受付	

1-2

科　目	生活と福祉Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	講義 2単位

授業概要	・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い生活と社会のしくみを体系的に捉え、対象者の生活の場としての地域という視点から地域共生社会や地域包括ケアの考え方、その実現のための制度・施策を講義する。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解できるよう、テキストや資料を使って講義を行う。
到達目標	・対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援について基礎的な知識を身につけることができる。 ・介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につけることができる。
学習成果の評価基準	到達目標に明示している生活とその支援について基礎的な知識や社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を習得することできる達成度を測るために、授業内課題並びに試験を実施し評価する。また、予習復習による理解度を図るためにも授業内での質問などの積極的授業態度をもって評価とする。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	社会生活とは何か 人間の生活について整理し、社会と生活のしくみについて学ぶ	生活と社会のかかわりについて整理しておくこと
2.	生活の基本機能とライフスタイルの変化 個人が人間らしく生きるための生活構造を考察する	家庭の機能と生活の多様化について理解する
3.	家族とは 生活の拠点である家庭・家族の役割・意義について考察し、現代の家族観を考察する	家庭と家族の役割について自分の意見をもって講義に臨む
4.	社会と組織の機能と役割について 個人と社会、組織に生きる仕組みを学び社会との関係性について考える	組織人としての役割や有用性を考える
5.	地域・地域社会における生活について 地域社会の概念や変化、地域生活における自助・互助・共助・公助の支援展開を考察する	自助・互助・共助・公助の意味を整理しておく
6.	地域社会における生活支援について 地域社会の変化に伴う地域の集団・組織の生活支援体系を考察する	フォーマル、インフォーマルサポートの考え方を整理しておく
7.	地域福祉とは何か 地域福祉の理念やともに生きる町づくりの考え方を整理する	地域福祉の理念を理解する
8.	地域共生社会について学ぶ 地域共生社会を目指す背景、理念、実現へ向けた取組について学ぶ	地域共生社会の理念の考え方を整理しておく
9.	地域包括ケアついて学ぶ 地域包括ケアの理念とシステムについて学ぶ	地域包括ケアシステムについて仕組みを整理すること
10.	社会保障の基本的な考え方 社会保障の役割と機能、範囲と対象、その種類について学ぶ	所得保障の考え方を整理し、社会保障の機能を理解する
11.	社会保障制度のしくみ① 公的扶助の概要を学ぶ	公的扶助に関する事項をテキストで確認しておく
12.	社会保障制度のしくみ② 年金制度の概要について学ぶ	年金制度に関する事項をテキストで確認しておく
13.	社会保障制度のしくみ③ 医療保険制度の概要について学ぶ	医療保険制度に関する事項をテキストで確認しておく
14.	社会保障制度のしくみ④ 労働保険制度、各種社会扶助の概要について学ぶ	労働保険に関する事項をテキストで確認しておく
15.	社会保障制度の現状と課題（まとめと評価） 少子・高齢社会における社会保障の果たすべき役割を考察する	今後の社会的支援のあり方を課題を基に考えておく

教科書	介護福祉士養成講座2『社会の理解』中央法規
参考書	必要に応じてプリントを配布します。 ・田畑洋一編『社会保障第3版』学文社　　・国民の福祉の動向』最新年版 厚生統計協会
学習成果の評価方法	受講態度(10%)、授業内課題(20%)、定期試験(70%)、単元ごとに、復習問題を実施し課題のフィードバックを行います。
特記すべき事項	福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月)
質問・相談等の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。

1-3

科　目	生活と福祉Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中野清隆	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	高齢者福祉と介護保険制度、および障害者福祉と障害者保健福祉制度、その他介護実践に関連する諸制度について基本的な考え方としくみを学び、それぞれの現状と課題を捉える。		
到達目標	介護実践に必要な観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。		
学習成果の評価基準	・高齢者の動向、介護保険法、障害者総合支援法、地域生活を支援する制度や施策、貧困対策・生活困窮者支援に関する制度や施策が理解できる。 ・授業で積極的に質問やグループワークができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	高齢者福祉の動向	テキストを読む
2.	高齢者福祉の今日的課題	テキストを読む
3.	高齢者福祉に関連する法律と制度	テキストを読む
4.	介護保険法①　背景や目的、仕組みの基本理解	テキストを読む
5.	介護保険法②　組織、団体等の役割	テキストを読む
6.	障害者保険福祉の動向	テキストを読む
7.	障害者福祉に関連する法律	テキストを読む
8.	障害者福祉に関連する制度	テキストを読む
9.	障害者総合支援法の考え方	テキストを読む
10.	障害者総合支援法のしくみ	テキストを読む
11.	個人の権利を守る制度や施策	テキストを読む
12.	地域生活を支援する制度や施策	テキストを読む
13.	保険医療に関する制度や施策	テキストを読む
14.	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度や施策	テキストを読む
15.	介護と関連領域との連携に必要な制度や施策	テキストを読む

教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座2『社会の理解』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（ 50 %）　　小テスト　（ 50 %）
特記すべき事項	「担当者は介護支援専門員として実務経験５年を有しています」 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	

1-4

科　目	仏教の人間観Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	青木　玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	本学の「建学の精神」に基づいて、人間とは何か、自分とは何かを、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯と教えから学び、現代社会の基本的問題も踏まえつつ、自分や社会を見つめる感性や現代社会を生きる人間としての生き方について考える力を養う内容。		
到達目標	仏教の思想を通して人間について学び、考えることを通して、介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養うことができる。		
学習成果の評価基準	授業後の感想文提出を「授業内課題」の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	「仏教」とは	「仏教」という言葉を調べる
2.	「人間」とは何か（1）　人間について考える	テキストを読む
3.	「人間」とは何か（2）　人間についての基礎理解	テキストを読む
4.	「誕生」について	テキストを読む
5.	「無常」について	テキストを読む
6.	「大切なこと」について	テキストを読む
7.	「煩悩」について（1）　基本的理解	テキストを読む
8.	「煩悩」について（2）　自分自身のこととして考える	テキストを読む
9.	これまでのまとめ	テキストを読む
10.	「であい」について（1）　様々な「であい」をグループワークによって考える	テキストを読む
11.	「であい」について（2）　「であい」について学ぶ	テキストを読む
12.	仏教の人間観（1）　現代社会の人間観について	テキストを読む
13.	仏教の人間観（2）　仏教の人間観について	テキストを読む
14.	仏教の人間観（3）　介護福祉士として	テキストを読む
15.	まとめ	テキストを読む

教科書	『親鸞 生涯と教え』
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（50%）授業内課題（50%）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-5

科　目	介護の基本Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	中野清隆	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護福祉の基本となる理念を学び、介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援ということを学習する。また施設、在宅、地域における諸場面についても学習し、介護福祉士の役割と機能を理解する内容。		
到達目標	介護福祉の歴史や社会状況の変遷も踏まえつつ、介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を身につける。		
学習成果の評価基準	・介護サービスの歴史、介護福祉の基本理念、尊厳、自立支援、地域包括ケアシステム、人生の最終段階の支援、災害時の支援が理解できる。 ・授業で積極的に質問やグループワークができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護福祉士とは	介護福祉士を目指す動機を考えておく
2.	介護の成り立ち	テキストを読んでおく
3.	社会の変化と介護福祉の歴史①　介護サービスの歴史	テキストを読んでおく
4.	社会の変化と介護福祉の歴史②　今日の介護サービス	テキストを読んでおく
5.	介護福祉の基本理念とは	テキストを読んでおく
6.	尊厳を支える介護とは	テキストを読んでおく
7.	自立を支える介護とは	テキストを読んでおく
8.	介護福祉の基本理念（演習）	テキストを読んでおく
9.	介護福祉の基本理念（演習）	テキストを読んでおく
10.	介護福祉士の活動の場と役割②　医療的ケア、人生の最終段階の支援	テキストを読んでおく
11.	介護福祉士の活動の場と役割③　災害時の支援	テキストを読んでおく
12.	社会福祉士法及び介護福祉士法	テキストを読んでおく
13.	介護福祉士養成カリキュラムの変遷	テキストを読んでおく
14.	介護福祉士を支える団体について	テキストを読んでおく
15.	まとめ	今までの学びを振り返る

教科書	最新介護福祉士養成講座3『介護の基本Ⅰ』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（ 20 %）　授業内課題　（ 30 %）　定期試験　（ 50 %）
特記すべき事項	「担当者は介護福祉士として２３年の実務経験を有しています」 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	

1-6

科　目	介護の基本Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中村京子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護福祉士の専門性と倫理を理解し、介護福祉士にもとめられる専門職としての態度を形成する。またICFの視点にもとづくアセスメントの理解やエンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を学ぶ。		
到達目標	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 ・介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。 ・ICFの視点に基づくアセスメントを理解しエンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援ができる。 ・介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。		
学習成果の評価基準	定期試験及び授業中の態度(遅刻・居眠り含む) 授業時の課題等にて評価する。（仮に授業の課題がなかったり少なかったりした場合にはその分の評価の割合は定期試験に加算するものとする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護福祉士の倫理 介護に携わる人が持つべき職業倫理・「介護福祉士の倫理」と「尊厳ある介護実践」	専門職について・倫理について考えておく
2.	介護を受ける人のプライバシーの保護と介護の倫理・高齢者虐待と生命倫理	プライバシーの保護の意味を調べる
3.	倫理的判断が必用な場面における介護福祉士の対応の方法 人生の最終段階の場面・身体拘束の場面・認知症ケアでの場面	事例を読んで自分の意見をまとめておく
4.	日本介護福祉士会の倫理綱領と介護福祉の専門性の理解 （利用者本位・自立支援・専門的サービスの提供・プライバシーの保護）	介護福祉士会の倫理を覚える
5.	総合的サービスの提供と積極的な連携・協力利用者ニーズの代弁・地域福祉の推進・後継者の育成	介護福祉士の役割を考える
6.	自立支援に向けた介護　①自立支援とは	利用者主体について考えをまとめておく
7.	自立支援に向けた介護　②自立支援とエンパワメントの考え方	エンパワメントの意味を調べる
8.	自立支援に向けた介護　③自立支援とICFの考え方とICFの視点に基づくアセスメント	ICFについての学習をしておく
9.	自立支援に向けた介護　④ICFの視点・エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援	演習問題を予習する
10.	自立支援に向けた介護　⑤ICFに見る相互関連性	観察法、コミュニケーション法、情報交換を学習しておく
11.	自立支援に向けた介護　⑥リハビリーテーションの意義	リハビリテーションとはを考える
12.	自立支援に向けた介護　⑦リハビリテーションの方法（実際）	テキストからいイメージトレーニングする
13.	自立支援に向けた介護　⑧リハビリテーションを考える上での障害の理解と評価	健康の概念・障害のとらえ方について調べる
14.	自立支援に向けた介護　⑨介護予防の概要と意義	介護予防の意義を調べる
15.	自立支援に向けた介護　⑩介護予防の実際，介護予防の方法	平均寿命・健康寿命について調べる

教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座3『介護の基本Ⅰ』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（15 %）　授業内課題（15 %） 定期試験（70 %）　授業内発表（ %）　その他【　】
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-7

科　目	コミュニケーション技術Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を学ぶ。		
到達目標	本人、家族等との関係性の構築やチームを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示しているコミュニケーションの基礎的な知識・技術習得の達成度を測るために、到達度確認レポートを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護を必要とする人とのコミュニケーションの基本	コミュニケーションの機能について復習する
2.	介護を必要とする人とのコミュニケーション　～共感的理解と信頼関係の構築～	共感的理解について復習する
3.	介護を必要とする人とのコミュニケーション　～話を聴く技術～	傾聴について復習する
4.	介護を必要とする人のコミュニケーション　～感情を察する技術	配布プリントを復習する
5.	介護における家族とのコミュニケーション　～家族への支援～	テキストを読む
6.	介護における家族とのコミュニケーション　～家族とのパートナーシップ～	テキストを読む
7.	障害の特性に応じたコミュニケーション　～視覚障がい～	テキストを読む
8.	障害の特性に応じたコミュニケーション　～聴覚・言語障がい～	テキストを読む
9.	障害の特性に応じたコミュニケーション　～認知・知的障がい～	テキストを読む
10.	障害の特性に応じたコミュニケーション　～精神障がい～	テキストを読む
11.	障害の特性に応じたコミュニケーション　～病態水準～	配布プリントを復習する
12.	介護におけるチームのコミュニケーション　1　意義・目的	テキストを読む
13.	介護におけるチームのコミュニケーション　2　情報の共有化の意義	テキストを読む
14.	介護におけるチームのコミュニケーション　3　介護記録と情報の管理	テキストを読む
15.	介護におけるチームのコミュニケーション　4　会議とプレゼンテーション	テキストを読む

教科書	最新介護福祉士養成講座　5　『コミュニケーション技術』　中央法規
参考書	なし
学習成果の評価方法	受講態度（10%）授業内課題（30%）定期試験（60%）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	研究室に質問に行く

1-8

科　目	生活援助Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	上野敦子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事介護を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を学ぶ。		
到達目標	・介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる家事介護の基礎的な知識・技術を習得することができる。 ・介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得することができる。		
学習成果の評価基準	・到達目標に明示している項目の達成度を測るために、小テスト、レポート等到達度確認テストを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	自立に向けた家事の意義と目的	家事の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的について復習する
2.	自立に向けた家事支援の視点①　自立した家事の一連の流れ	テキストの該当箇所を読む
3.	自立に向けた家事支援の視点②　家事支援における介護福祉職の役割	テキストの該当箇所を読む
4.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術①　洗濯の意義	洗濯の手順及び留意点と根拠について復習する
5.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術②　洗濯の演習	主な洗濯マークについて理解しておく
6.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術③　そうじ・ごみ捨ての意義	掃除の手順及び留意点について復習する
7.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術④　裁縫―衣類の補修	ボタンの付け方を復習する
8.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術⑤　裁縫―演習	様々な縫い方を復習する
9.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術⑥　衣類の衛生管理	衣類のたたみ方の手順を復習する
10.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術⑦　寝具の衛生管理	寝具の日常の手入れについて復習する
11.	自立に向けた家事支援の基本となる知識と技術⑧　買い物・家庭経営・家計	クーリングオフ制度について予習しておく
12.	対象者の個々の状態に応じた家事支援の留意点①　事例（1）	テキスト該当箇所の演習を予習しておく
13.	対象者の個々の状態に応じた家事支援の留意点②　事例（2）	事例で学んだ留意点を復習する
14.	家事の介護における多職種との連携①　在宅	テキストの該当箇所を読む
15.	家事の介護における多職種との連携②　施設	テキストの該当箇所を読む

教科書	最新介護福祉養成講座6『生活支援技術Ⅰ』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１０％）　小テスト（１０％）　授業内課題（１０％）　定期試験（６０％）　授業内発表（１０％）
特記すべき事項	休んだ場合は、その授業の内容を必ず自己学習しておくこと 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	授業終了後に、質問・相談等を受け付けます。

1-9

科　目	生活援助Ⅱ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	上野敦子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・住まいの多様性を理解するとともに、高齢者や障害者にとって生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を学ぶ。		
到達目標	・介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる自立に向けた居住環境の整備、介護の基礎的な知識・技術を習得することができる。 ・介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得することができる。		
学習成果の評価基準	・到達目標に明示している項目の達成度を測るために、小テスト、レポート等到達度確認テストを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	自立に向けた住環境の整備の意義と目的	住環境の整備の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的について復習する
2.	自立に向けた住環境の整備の視点①　地域と家族	住み慣れた地域に継続して住み続けることの意味を考えておく
3.	自立に向けた住環境の整備の視点②　加齢と生活空間	加齢に伴う生活空間に対するニーズについて復習する
4.	自立に向けた住環境の整備の視点③　快適な室内環境の整備	快適な温度、明るさ、音について復習する
5.	自立に向けた住環境の整備の基礎的な知識①　住居内事故の現状	日本家屋の問題点についてまとめておく
6.	自立に向けた住環境の整備の基礎的な知識②　日常安全のための対策案	介護保険制度で利用できる住宅改修・福祉用具について復習する復習する
7.	自立に向けた住環境の整備の基礎的な知識③　住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザインについて予習しておく
8.	自立に向けた住環境の整備の基礎的な知識④　災害に対する備え	地域のハザードマップを調べておく
9.	対象者の状態・状況に応じた留意点①　高齢者の住まい	テキストの該当箇所を読んでおく
10.	対象者の状態・状況に応じた留意点②　障害のある人の住まい	ノーマライゼーションについて予習しておく
11.	対象者の状態・状況に応じた留意点③　集団生活における工夫と留意点	学んだことを復習する
12.	対象者の状態・状況に応じた留意点④　在宅生活における工夫と留意点	学んだことを復習する
13.	居住環境の整備における多職種連携の必要性	テキストの該当箇所を読んでおく
14.	居住環境の整備における多職種連携の実際	テキスト該当箇所の事例を読んでおく
15.	まとめ	これまでの学びを振り返っておく

教科書	最新介護福祉養成講座6『生活支援技術Ⅰ』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１０％）　小テスト（１０％）　授業内課題（１０％）　定期試験（６０％）　授業内発表（１０％）
特記すべき事項	休んだ場合は、その授業の内容を必ず自己学習しておくこと 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	授業終了後に、質問・相談等を受け付けます。

1-10

科　目	日常生活援助Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	中野清隆・村上有希・長谷川孝子	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた移動・身じたく・食事の介護の基礎的な知識・技術を習得する講義とする。また、自立へ向けた住環境の整備の一環として寝具衛生も取り込む講義とする。		
到達目標	生活支援の理解及び自立に向けた移動・身じたく・食事・寝具の基礎的な知識・技術など、実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得し、介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得することができる。		
学習成果の評価基準	・ボディメカニクス、ADL（移動・移乗、衣服の着脱、食事）等の必要な介護技術ができる。 ・授業及び演習で積極的に質問や取り組みができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護福祉士が行う生活支援の意義・目的	生活支援の意義について考える
2.	ICFの視点による生活支援の理解	テキストの該当箇所を読む
3.	生活支援に共通する技術　説明・同意、観察・準備、評価、安全	テキストの該当箇所を読む
4.	自立に向けた住環境整備①－１　快適な室内環境としての寝具を考える	生活における寝具の意味
5.	自立に向けた住環境整備①－２　快適な寝具環境の基本(ベッドメイキング)	ベッド使用による快適性とは
6.	自立に向けた住環境整備①－３　快適な寝具環境の応用(ベッドメイキング)	ベッド以外の寝具の快適性とは
7.	自立に向けた移動の介護②－１ 移動支援の意義と目的	移動支援の目的について考える
8.	自立に向けた移動の介護②－２ 身体の動作分析	体の動作と介助関係を考える
9.	自立に向けた移動の介護②－３　寝返り、起き上がり、立ち上がり	移乗動作について調べる
10.	自立に向けた移動の介護②－４　姿勢の保持(ポジショニング、シーティング)	左記のワードの意味を調べておく
11.	自立に向けた移動の介護②－５　歩行介助	歩行のメカニズムを確認しておく
12.	自立に向けた移動の介護②－６　車椅子移乗と介助	車椅子のパーツの名称を調べる
13.	自立に向けた移動の介護②－７　他の福祉用具を利用した移動・移乗	移動用の福祉用具を調べておく
14.	自立に向けた移動の介護②－８　事故対応と安全確保	予想される事故内容を考えておく
15.	自立に向けた移動の介護②－９　疾患、障害、機能低下による介助	身体機能の低下者への支援内容

教科書	最新介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅱ』中央法規 『写真でわかる生活支援技術』インターメディカ
参考書	必要に応じプリント配布
学習成果の評価方法	受講態度（20%）　小テスト（20%）　その他【　演習　】（60%）
特記すべき事項	中野：介護福祉士として２３年の実務経験を有しています 介護福祉士受験資格必須
質問・相談等の受付	

1-11

科　目	日常生活援助Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中野清隆・村上有希・長谷川孝子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた入浴・清潔保持・排泄・休息・睡眠の介護の基礎的な知識・技術を習得する。		
到達目標	・自立に向けた入浴・清潔保持・排泄・休息・睡眠の介護を通して実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得することができる。 また、介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得することができる。		
学習成果の評価基準	・ボディメカニクス、ADL（入浴、清潔の保持、排泄、休息・睡眠）等の必要な介護技術ができる。 ・授業及び演習で積極的に質問や取り組みができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①　入浴・清潔保持の意義と目的	入浴・清潔保持の介護の意義と目的について考える
2.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②　入浴・清潔保持支援の介護の視点について	入浴・清潔保持の介護の視点について考える
3.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③　入浴・清拭保持の介護(変化の気づき、入浴、シャワー浴など)	変化の気づきと介護の方法について整理する
4.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④　入浴・清拭保持の介護(変化の気づき、部分浴、洗髪、清拭など)	変化の気づきと介護の方法について整理する
5.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤　入浴・清拭保持の介護における事故・感染症への対応	予想される事故内容と安全について考えておく
6.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥　疾患、障害、機能低下等による介助の留意点	機能低下による入浴・清潔保持の介護の視点
7.	自立に向けた排泄の介護①　排泄の支援の意義と目的	排泄介護の意義とについて考える目的を整理する
8.	自立に向けた排泄の介護② 排泄の介護の基本となる知識と技術(変化の気づき、トイレ、ポータブル、採尿器、おむつなど)	排泄の介護方法のポイントをおさえる
9.	自立に向けた排泄の介護③　排泄介護時の事故と感染症への対応	予想される事故・感染症について考えておく
10.	自立に向けた排泄の介護④　疾患、障害、機能低下等による介助の留意点	機能低下による排泄介護の視点を整理する
11.	休息・睡眠の介護①　休息・睡眠の意義と目的	休息・睡眠の意義・目的について考える
12.	休息・睡眠の介護②　休息・睡眠の介護の視点について	休息と睡眠の環境整備とは何かを考えておく
13.	休息・睡眠の介護③　休息・睡眠の基本となる知識と技術(変化の気づき、安眠を促す方法など	安楽な体位の保持の支援方法について考える
14.	休息・睡眠の介護④　休息・睡眠介護時の事故への対応	予想される事故・安全策について考えておく
15.	休息・睡眠の介護⑤　疾患、障害、機能低下等による介助の留意点	機能低下による休息・睡眠介護の視点を整理する

教科書	最新介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅱ』中央法規 『写真でわかる生活支援技術』インターメディカ
参考書	必要に応じプリント配布
学習成果の評価方法	受講態度　（ 20 %）　小テスト　（ 20 %）　その他【 演習 】（ 60 %）
特記すべき事項	中野：介護福祉士として２３年の実務経験を有しています 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	

1-12

科　目	介護過程Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践における介護過程の意義の基本的理解を踏まえ、介護過程を展開知るための一連のプロセスと着眼点を養う内容とする。		
到達目標	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を身につけることができる。		
学習成果の評価基準	地域にて本人主体の生活を継続するための介護過程を展開できる能力について定期試験を実施し評価する。また、「介護過程」への取り組み姿勢（聞く、話す、読む、書く）を受講態度の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	コミュニケーション・プロセス	コミュニケーション手段について調べておく
2.	プロセスレコードの意義・考え方	介護実習マニュアル「プロセスレコード」様式を確認しておく
3.	プロセスレコードの演習①　プロセスレコードの目的	コミュニケーション中の自身及び他者の感情の変化について学習しておく
4.	プロセスレコードの演習②　介護過程における思考過程法	介護実習マニュアル「プロセスレコード」様式を復習しておく
5.	介護過程を展開するプロセス	主観的情報、客観的情報について調べておく
6.	本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護の実践を考える：単一の介護行動過程の観察法①　観察方法（ＩＣＦ）	観察方法、ＩＣＦについて調べておく
7.	本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護の実践を考える：単一の介護行動過程の観察法②　正しい情報	行動の元となる情報を把握、認識する
8.	本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護の実践を考える：単一の介護行動過程の観察法③　認知	行動の元となる情報を把握、認識する
9.	行動前のアセスメント力	ＩＣＦの構成要素について調べておく
10.	アセスメントから介護行動につなぐ	アセスメントについて復習しておく
11.	観察（ＳＯ・Ａ・Ｄ・ＳＯ）の一連の介護過程の流れ	単一行動過程について復習しておく
12.	介護行動過程と自己の行動評価	価値観の相違について調べておく
13.	介護行動終了における観察と報告	価値観の相違について調べておく
14.	介護過程とチームアプローチ	介護サービスを実践する他の専門職について調べておく
15.	本人の望む生活の実現に向けた介護過程の展開	ＱＯＬについて調べておく

教科書	最新介護福祉士養成講座９　『介護過程』　中央法規　　『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（　10　%）　授業内課題　（　20　%） 定期試験　（　70　%）
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する
質問・相談等の受付	

1-13

科　目	介護過程Ⅱ	開講時期 履修方法	１年後期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、ＩＣＦモデルを活用し介護過程を展開知るための一連のプロセスと着眼点を養う内容とする。		
到達目標	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。　①個別介護計画とチームワークの関連性を理解することができる。②利用者の全体像とICFのアセスメント６項目を基本に情報収集及びアセスメント法を修得することができる。③介護の目標を確認し、個別介護計画の立案・展開法を身につける。		
学習成果の評価基準	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力について定期試験を実施し評価する。また、「介護過程」への取り組み姿勢（聞く、話す、読む、書く）を受講態度の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	個別介護計画の意義と基礎的理解	実習記録「利用者サマリー」を確認しておく（実習マニュアル）
2.	利用者の理解の深め方	実習記録「利用者サマリー」の各情報について調べておく
3.	利用者の個人情報の収集法	実習記録「利用者サマリー」に関する個人情報の必要性について考えることができる
4.	介護に必要な個人情報	介護実習Ｉ－２目標を把握する（実習マニュアル）
5.	変化する利用者と情報収集	ＩＣＦの生活機能とニーズについて学習しておく
6.	ICFのアセスメント項目	背景因子が与える影響について考えておく
7.	根拠に基づく介護の実践を伴う課題解決の思考過程①　事例	テキストＰ３８事例のアセスメントを考えておく
8.	根拠に基づく介護の実践を伴う課題解決の思考過程②　相関関連図の作成	相関関連図について復習しておく
9.	介護の課題の明確化、優先度を決めて	生活課題、課題の優先順位について学習しておく
10.	介護目標の設定	介護目標の設定について調べておく
11.	介護内容の具体化	介護目標の表現方法につて復習しておく
12.	計画の実践と評価	介護計画の実施について学習しておく
13.	チームにおける計画の共有化	介護計画の評価・考察について学習しておく
14.	計画の活用と利用者の生活	介護計画の評価・考察について復習しておく
15.	個別介護計画の立案・展開法	個別介護計画の立案・展開法について学習しておく

教科書	最新介護福祉士養成講座９『介護過程』　中央法規　　『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（　１０　%）　　授業内課題　（　２０　%） 定期試験　（　７０　%）
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する
質問・相談等の受付	

科　目	介護総合演習Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる内容とする。 ・実習Ⅰ-1を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての 態度を養う内容とする。		
到達目標	これまでに各領域で学んだ知識と技術を統合できるよう介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を身につける。		
学習成果の評価基準	・実習施設についての理解について調べ学習へ取り組み発表することで評価する ・介護実習Ⅰ－１を通して、自己の課題を明確にし専門職として働くことについての考察を評価する		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護実習の意義と目的：利用者の日常生活について	介護実習の意義と目的を理解する
2.	実習準備① 介護実習の流れについて	実習の流れを理解する
3.	実習準備② 実習施設・事業所・そこで生活している人などの理解	施設の種類、利用者、サービス内容について調べる
4.	実習準備③ 記録の意義と目的、方法、留意点	記録の方法について理解する
5.	実習準備④ 具体的な記録の活用方法（環境整備・タイムスタディー）	記録用紙の書き方について理解する
6.	実習準備⑤ 具体的な記録の活用方法（プロセスレコード）	記録用紙の書き方について理解する
7.	実習準備⑥ 健康管理、マナー	感染予防等の健康管理、マナーについて理解する
8.	実習準備⑦ 個人情報の取り扱い	個人情報の取り扱いについて理解する
9.	スーパービジョン教育とカンファレンス	カンファレンステーマを学習する
10.	事前打ち合わせの意義	事前打ち合わせの意義を理解する
11.	実習の振り返り① 実習体験の感想の発表①報告会を通じた学びの共有	実習体験を整理して臨む
12.	実習の振り返り② 実習体験の感想の発表②報告会を通じた学びの深化	実習体験を整理して臨む
13.	実習の振り返り③ 実習Ⅰ－1の自己評価	実習体験を整理して臨む
14.	実習の振り返り④ 実習Ⅰ－1の客観的評価	実習Ⅰ－１への自己評価をしておく
15.	次期実習への展開	実習Ⅰ－１の振り返りをしておく

教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　40%、授業内課題　30%、グループ学習　30% 授業内課題については、その都度、提出状況を確認しフィードバックする。
特記すべき事項	担当者は介護福祉士として5.5年の実務経験を有する。 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	メールにて随時受付　(murakami@kyushuotani.online)

1-15

科　目	介護総合演習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる内容とする。 ・これまでの実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。		
到達目標	これまでの実習、介護総合演習Ⅰ及び各領域で学んだ知識と技術を統合できるように介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を身につける。		
学習成果の評価基準	・これまでの学びから実習施設についての理解を深め学生自身で情報を得ることで評価する ・自己の課題を明確にし、専門職としての態度を述べることで評価する		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護実習の意義と目的：利用者の日常生活動作の支援	介護実習の意義と目的を理解する
2.	実習準備① 介護実習の流れについて	実習の流れを理解する
3.	実習準備② 実習施設・事業所・そこで生活している人などの理解	施設の種類、利用者、サービス内容について調べる
4.	実習準備③ 具体的な記録の活用方法	記録用紙の書き方について理解する
5.	実習準備④ 利用者とのコミュニケーション・レクリエーションの理解	利用者とのコミュニケーションについて理解する
6.	実習準備⑤ 事業所のある地域の理解、社会資源とかかわり	事業所のある地域について理解する
7.	実習準備⑥ 在宅利用者と社会サービスを理解する	在宅利用者を理解する
8.	実習準備⑦ チームケア、多職種連携について	チームケアについて理解する
9.	実習の振り返り① 実習体験の感想の発表①報告会を通じた学びの共有	実習体験を整理して臨む
10.	実習の振り返り② 実習体験の感想の発表②報告会を通じた学びの深化	実習体験を整理して臨む
11.	実習の振り返り③ 実習Ⅰ－2の自己評価	実習体験を整理して臨む
12.	実習の振り返り④ 実習Ⅰ－2の客観的評価	実習Ⅰ－2への自己評価をしておく
13.	実習の振り返り⑤ 訪問介護実習の感想の発表　報告会を通じた共有と深化	実習体験を整理して臨む
14.	実習の振り返り⑥ 訪問介護実習の自己評価と客観的評価	実習体験を整理して臨む
15.	次期実習への展開	実習Ⅰ－2・訪問介護実習の振り返りをしておく

教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　40%、授業内課題　30%、グループ学習　30% 授業内課題については、その都度、提出状況を確認しフィードバックする。
特記すべき事項	担当者は介護福祉士として5.5年の実務経験を有する。 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	メールにて随時受付　(murakami@kyushuotani.online)

1-16

科　目	介護実習Ⅰ－1	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希・中野清隆・中村秀一・塚本真由美・中島　航	授業形態 単位数	実習 1単位
授業概要	・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、コミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を養い地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。		
到達目標	介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。		
学習成果の評価基準	実習手続、実習巡回指導、実習施設評価、記録作成等を総合して評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
	上記到達目標・学習成果を修めるために下記の目標を掲げ実施する (実習目標) 利用者の日常生活状況について理解する (時間) ３２時間 (方法) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設 グループホーム・障がい者支援施設　等 <学習内容> (1) 日常生活環境の整備体験を学ぶ。 ①ベッドメイキングを行う。 ②利用者の部屋の環境整備を行う。 ③生活用品の管理を行う。 ④プライバシーに配慮する。 ⑤挨拶ができ、説明、同意（了解）の上、行動ができる。 (2) 利用者と介護者のかかわり方を観察する。 ①自分以外の人の言動を観察する。 ②利用者の生活の流れを知る。 ③ケアスタッフの生活介護の動きを知る。 (3) 学生自身と利用者とのかかわりを体験する。 ①安全に配慮し人に声をかけ、人の話を聞き、人と話をする。 ②ことば以外のコミュニケーション手段を体験する。 ③プロセスレコードを活用して利用者理解、介護者としての学生自身を理解する。 (4) カンファレンスの意義を理解し、カンファレンス体験をする。	実習に臨み健康管理をしておく。実習にて使用する記録用紙について確認しておく。具体的には以下のものとする。 介護実習Ⅰ－1 ・実習日誌 ・施設の概要 ・生活環境の整備体験 ・タイムスタディー記録 ・プロセスレコード ・カンファレンス記録

教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』
参考書	
学習成果の評価方法	実習態度　40%、レポート　10%、実習記録　40%、【実習評価表】10%（健康管理並びに記録物の提出状況） 実習巡回指導、実習施設評価は授業内でフィードバックする。
特記すべき事項	村上：担当者は介護福祉士として5.5年の実務経験を有する 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）

1-17

科　目	介護実習Ⅰ－2	開講時期 履修方法	１年後期 必修、専門科目
担当者	村上有希・中野清隆・中村秀一・塚本真由美・中島　航	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	・介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 また、対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。		
到達目標	実習Ⅰ－1、介護総合演習Ⅰ及び介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。		
学習成果の評価基準	・利用者の日常生活動作に対して支援した事実と、それに対する考察を評価する ・訪問介護サービスの体験を通して在宅利用者の状況と社会サービスについての考えを評価する		

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
上記到達目標・学習成果を修めるために下記の目標を掲げ実施する 【介護実習Ⅰ－２】 （目標） 利用者の日常生活動作に支援対応する （時間） ９６時間 （方法） 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障がい者支援施設　等 <学習内容> （１）行動する前に、利用者を観察・判断して支援、観察して報告・記録にする。 ①利用者との関係づくりで、安心関係を確認する。 ②介護支援を必要としている人に、介護内容の確認をする。 ③利用者の現有能力を生かした対応を行う。 ④介護状況（利用者の状態も）を観察してチームに報告、記録する。 （２）利用者の尊厳・自立支援にどう向き合うかを学ぶ。 ①利用者とのコミュニケーションにおいて、目線・ことばかけに配慮し、存在の確認を行う。 ②現有能力の活用を確認しながら行う。 ③安全・安楽・プライバシーを配慮する。 （３）利用者の生きる楽しみにつながるレクリエーション活動の目的方法を学ぶ。 ①利用者が楽しめるレクリエーションを企画する。 ②チームワークを理解し、レクリエーションを実践。評価する。 【訪問介護実習】 （目標） 訪問介護サービスの体験を通して在宅利用者の状況と社会サービスを理解する （時間） ２４時間 （方法）	実習に臨み健康管理をしておく。実習にて使用する記録用紙について確認しておく。具体的には以下のものとする。 介護実習Ⅰ－2 ・実習日誌 ・施設の概要 ・プロセスレコード ・カンファレンス記録 ・レクリエーション計画書 訪問介護実習 ・実習日誌 ・事業所の概要

教科書	テキスト：最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規 『九州大谷短期大学福祉学科介護実習マニュアル』
参考書	
学習成果の評価方法	実習態度　40%、レポート　10%、実習記録　40%、【実習評価表】10%（健康管理並びに記録物の提出状況） 実習巡回指導、実習施設評価については、授業内でフィードバックする。
特記すべき事項	村上：担当者は介護福祉士として5.5年の実務経験を有する。 介護福祉士受験資格必修
質問・相談等の受付	メールにて随時受付　(murakami@kyushuotani.online)

1-18

科　目	発達と老化Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾患について理解する内容を学ぶ。		
到達目標	介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している心身の構造や機能及び発達段階とその課題についての達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	人間の成長と発達の基礎的理解　①　成長と発達	生涯発達論について復習する
2.	人間の成長と発達の基礎的理解　②　成長と発達の原則	発達の原則について復習する
3.	人間の発達と発達課題　①　発達段階と発達課題・胎児期・乳児期	ライフサイクルについて復習する
4.	人間の発達と発達課題　②　幼児期	幼児期の発達課題について復習する
5.	人間の発達と発達課題　③　学童期	学童期の発達課題について復習する
6.	人間の発達と発達課題　④　思春期・青年期	アイデンティティについて自らを振り返っておく
7.	人間の発達と発達課題　⑤　成人期	ミッドライフクライシスについて復習する
8.	人間の発達と発達課題　⑥　老年期	エリクソンのライフサイクルについて復習する
9.	身体機能の成長と発達	自分の出生時の身長や体重を調べておく
10.	心理的機能の発達	ピアジェの発達理論を復習する
11.	社会的機能の発達	アタッチメント理論を復習する
12.	発達段階にみた特徴的な疾病や障害　①　胎児期・乳児期・幼児期	発達障害について復習する
13.	発達段階にみた特徴的な疾病や障害　②　学童期・思春期	発達障害について復習する
14.	発達段階にみた特徴的な疾病や障害　③　青年期・成人期	発達障害について復習する
15.	老年期の基礎的理解	老年期の定義について復習する

教科書	最新介護福祉士養成　12　『発達と老化の理解』　中央法規
参考書	なし
学習成果の評価方法	受講態度（10%）達成度確認テスト（30%）定期試験（60%）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-19

科　目	発達と老化Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する学びとする。		
到達目標	介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している心身の構造や機能及び発達段階とその課題についての達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	老年期の基礎的理解～老化学説～	老年期の定義について予習しておく
2.	老年期の基礎的理解～喪失と価値転換～	老いの価値とは何かを考える
3.	老年期の基礎的理解～セクシュアリティ～	セクシュアリティについて自分の考えを整理する
4.	老化に伴うこころとからだの変化と生活　①　身体機能の低下	テキストの該当箇所を復習する
5.	老化に伴うこころとからだの変化と生活　②　身体機能の低下が及ぼす日常生活への影響	テキストの該当箇所を復習する
6.	老化に伴うこころとからだの変化と生活　③　精神的機能	テキストの該当箇所を復習する
7.	老化に伴うこころとからだの変化と生活　④　認知機能	テキストの該当箇所を復習する
8.	老化に伴うこころとからだの変化と生活　⑤　家族・対人関係	身近な高齢者の対人交流について調べておく
9.	高齢者と健康	テキストの該当箇所を復習する
10.	高齢者に多く見られる疾病と生活への影響　①　骨格系・脳・神経系	テキストの該当箇所を復習する
11.	高齢者に多く見られる疾病と生活への影響　②　皮膚・感覚器系・循環器系	テキストの該当箇所を復習する
12.	高齢者に多く見られる疾病と生活への影響　③　呼吸器系・消化器系	テキストの該当箇所を復習する
13.	高齢者に多く見られる疾病と生活への影響　④　腎・泌尿器系・内分泌・代謝系	テキストの該当箇所を復習する
14.	高齢者に多く見られる疾病と生活への影響　⑤　感染症等・精神疾患	テキストの該当箇所を復習する
15.	高齢者に多く見られる疾病と生活への影響　⑥　精神疾患	テキストの該当箇所を復習する

教科書	最新介護福祉士養成講座　12　『発達と老化の理解』　中央法規
参考書	なし
学習成果の評価方法	受講態度（10%）到達度確認テスト（30%）定期試験（60%）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-20

科　目	認知症の理解	開講時期 履修方法	１年後期 必修、専門科目
担当者	城戸由香里	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解する内容とする。また、医療的・心理的側面から、認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。		
到達目標	認知症や障害のある人の生活を支えるという視点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している「医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識」についての達成度を測るために、到達度達成テストを実施し、評価する		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	認知症を取り巻く状況① 認知症ケアの歴史	認知症のケアの歴史について学習しておく
2.	認知症を取り巻く状況② 認知症ケアの理念	認知症ケアの理念について学習しておく
3.	認知症を取り巻く状況③ 認知症高齢者の現状と今後	認知症を取り巻く社会環境につて学習しておく
4.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎① 認知症の診断方法	認知症の診断方法について学習しておく
5.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎② 認知症による障害（中核症状）	中核症状について学習しておく
6.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎③ 認知症による障害（BPSD）	ＢＰＳＤについて学習しておく
7.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎④ 認知症と間違えられやすい症状（うつ病、せん妄）	うつ病、せん妄について学習しておく
8.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎⑤ 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（アルツハイマー型認知症の病態）	アルツハイマー型認知症について学習しておく
9.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎⑥ 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（アルツハイマー型認知症の症状と経過）	アルツハイマー型認知症について復習しておく
10.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎⑦ 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（脳血管型認知症）	脳血管型認知症について学習しておく
11.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎⑧ 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（レビー小体型認知症）	レビー小体型認知症について学習しておく
12.	医学的・心理的側面から見た認知症の基礎⑨ 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（前頭側頭型認知症）	前頭側頭型認知症について学習しておく
13.	若年性認知症	若年性認知症について学習しておく
14.	認知症の治療薬	認知症の治療薬について学習しておく
15.	認知症のリスクを下げる要因、高める要因	認知症の予防について学習しておく

教科書	最新介護福祉士養成講座13『認知症の理解』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	講態度（１５%）　授業内課題（７０%）　その他【授業内レポート】（１５%）
特記すべき事項	認知症対応型共同生活介護施設長16年、公認心理師としての実務経験を有する
質問・相談等の受付	

1-21

科　目	こころとからだのしくみⅠ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	中村京子・河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。		
到達目標	介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につけることができる。		
学習成果の評価基準	定期試験及び授業中の態度(遅刻・居眠り含む) 授業時の課題等にて評価する。（仮に授業の課題がなかったり少なかったりした場合にはその分の評価の割合は定期試験に加算するものとする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	こころのしくみの理解①　健康とは・人間の欲求の基本的理解	健康とは何かを考えておく
2.	こころのしくみの理解②　自己概念と尊厳	マズローの欲求段階説を復習する
3.	こころのしくみの理解③　脳とこころの関係	脳の機能局在について復習する
4.	こころのしくみの理解④　学習のしくみ	学習理論について復習する
5.	こころのしくみの理解⑤　記憶のしくみ	記憶の過程・種類について復習する
6.	こころのしくみの理解⑥　意欲・動機づけのしくみ	モチベーションについて復習する
7.	こころのしくみの理解⑦　適応と適応機制	適応機制について復習する
8.	からだのしくみの理解①　身体各部の名称について、骨・筋肉	骨や筋肉のしくみについて予習をしておく
9.	からだのしくみの理解②　感覚器	感覚器のしくみについて復習する
10.	からだのしくみの理解③　脳・神経系	中枢神経・末梢神経について予習をしておく
11.	からだのしくみの理解④　呼吸器・循環器	呼吸器・循環器の解剖や生理機能について復習する
12.	からだのしくみの理解⑤　消化器	消化器の解剖や生理機能について復習する
13.	からだのしくみの理解⑥　泌尿器・生殖器・内分泌	泌尿器、生殖器、内分泌の機能について復習する
14.	身じたくに関連したこころのしくみ①　身じたくの目的、しくみ	身じたくに関連したしくみについて復習する
15.	身じたくに関連したこころのしくみ②　心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	テキストの該当箇所の演習をまとめる

教科書	最新介護福祉士養成講座　11　『こころとからだのしくみ』　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（10%）　授業内課題（40%）　定期試験（50%）
特記すべき事項	中村:看護師・保健師として5年の実務経験を有する 河村:臨床心理士として10年の実務経験を有する
質問・相談等の受付	

1-22

科　目	こころとからだのしくみⅡ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	入浴・清潔保持・排泄に関連した生活援助を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する内容とする。		
到達目標	入浴・清潔保持・排泄に関連した介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解することができる。また、対象者の生活を支援する観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉える為の知識を身につけることができ、医療職等の専門職種と連携できる実践能力を習得する。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している、入浴・清潔保持・排泄に関連した心身の構造や機能及び、対象者の身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉える為の知識の理解度を期末試験及び授業内課題にて評価する。また「こころとからだのしくみ」への取り組み姿勢（聞く、話す、読む、書く）を授業態度の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識①　入浴の意義	入浴の意義について学習しておく
2.	入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識②　清潔がもたらす効果	清潔がもたらす効果について学習してく
3.	清潔保持に関連したこころのしくみ	皮膚の解剖生理について学習しておく
4.	清潔保持に関連したからだのしくみ	皮膚の汚れのメカニズムについて学習しておく
5.	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①　精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	褥瘡のメカニズムについて学習しておく
6.	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②　身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	入浴による血圧の変化について学習しておく
7.	生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	入浴・清潔保持に必要なアセスメントと観察のポイントを学習しておく
8.	排泄に関連したこころとからだの基礎知識	排泄の必要性について学習しておく
9.	排泄行為の理解	排泄行為を認識する
10.	排泄に関連したこころのしくみ	排泄とこころの関係について学習しておく
11.	排泄に関連したからだのしくみ①　尿排出のしくみ	尿の生成と性状について学習しておく
12.	排泄に関連したからだのしくみ②　便排出のしくみ	便の生成と性状について学習しておく
13.	精神、判断力の低下が排泄に及ぼす影響	認知症が及ぼす影響について学習しておく
14.	身体の機能低下が排泄に及ぼす影響	失禁の種類と特徴について調べておく
15.	生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	日常生活における排泄の観察のポイントを学習しておく

教科書	最新介護福祉士養成講座１１『こころとからだのしくみ』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（ 10 %）　授業内課題　（ 20 %） 定期試験　（ 70 %）
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する
質問・相談等の受付	

1-23

科　目	こころとからだのしくみⅢ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	高木和大	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	移動・食事に関連した生活援助を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する内容とする。		
到達目標	移動・食事に関連した介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解することができる。また、対象者の生活を支援する観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉える為の知識を身に着けることができ、医療職等の専門職種と連携できる実践能力を習得する。		
学習成果の評価基準	授業での積極的なグループ活動（討議や発表）を「受講態度」「発表」の評価とする。移動、食事の達成度を測るために、敵試験において6割以上の解答ができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	基礎知識（生理的意味、重心とは、バランスとは、良肢位について）	移動に関連したからだのしくみについて学習しておく
2.	姿勢、体位、立位、座位のしくみ	姿勢の種類について学習しておく
3.	歩行のしくみ、筋肉・骨・関節のしくみ	歩行するためのしくみについて学習しておく
4.	移動に関する機能低下、障害のしくみ、移動の影響について	移動に関する機能低下のメカニズムについて学習しておく
5.	運動が及ぼす身体の負担について	運動による体への影響を学習しておく
6.	生活場面におけるこころと身体の変化の気づきと医療職との連携	移動に必要な観察とアセスメントのポイントを学習しておく
7.	移乗動作の理論	移乗動作について予習しておく
8.	移乗動作の留意点	移乗動作について予習しておく
9.	食事に関連したこころとからだの基礎知識	食事の意義について学習しておく
10.	食べることに関連したこころとからだのしくみ（基礎）	食事に関連したからだのしくみについて学習しておく
11.	食べることに関連したこころとからだのしくみ（生活場面への応用）	食事と生活の関連について学習しておく
12.	機能の低下、障害が及ぼす食事への影響（基礎）	機能低下のメカニズムについて学習しておく
13.	機能の低下、障害が及ぼす食事への影響（生活場面への応用）	摂食障害と生活場面への影響について学習しておく
14.	生活場面におけるこころとからだの変化の気づき	食事に必要な観察とアセスメントのポイントを学習しておく
15.	医療職との連携	関係する医療専門職を学習しておく

教科書	最新介護福祉士養成講座１１『こころとからだのしくみ』中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１０％）　授業内課題　（２５％）　定期試験　（４０％）　授業内発表　（２５％）
特記すべき事項	担当者は理学療法士として病院において7年、介護保険施設において9年の実務経験を有する 介護福祉士受験資格必須
質問・相談等の受付	

1-24

科　目	医療的ケアⅠ	開講時期 履修方法	１年後期 必修、専門科目
担当者	塚本真由美	授業形態 単位数	講義 2単位

授業概要	医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染症予防」、「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する内容とする。また、喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する内容とする。
到達目標	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識を習得できる。 ①介護福祉士が医療的ケアを行う背景について理解する。②安全に痰の吸引が提供できることの重要性について理解する。③感染症予防について理解する。④健康な状態について理解し、急変の状態が分かる。
学習成果の評価基準	達成目標に明示している①～④の達成状況を測るために、小テスト及び定期試験を実施し評価する。また、「医療的ケア」への取り組み姿勢（聞く、話す、読む、書く）を授業態度の評価とする。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
１．オリエンテーション　医療的ケアの目的・人間と社会、個人の尊厳と自立、倫理上の留意点 ２．保健医療制度とチーム医療 ３．安全な療養生活①　ヒヤリハット・アクシデント ４．安全な療養生活②　救急蘇生法 ５．清潔保持と感染予防①　基礎知識 ６．清潔保持と感染予防②　滅菌と消毒　（手洗い・うがい・手袋・ガウン装着・廃棄物処理・滅菌操作） ７．健康状態の把握①　健康とは ８．健康状態の健康②　バイタルサインズ、急変状態について ９．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論　（1）呼吸の仕組みと働き　（2）いつもと違う呼吸 １０．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論　（3）痰の吸引とは　（4）人工呼吸器と吸引 １１．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論　（5）成人と小児吸引の違い　（6）吸引受ける利用者や家族の気持ちと対応 １２．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論　（7）説明と同意　（8）呼吸器系の感染と予防 １３．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論　（9）痰の吸引により生じる危険、事後の安全確認　（10）急変・事故発生時の対応と事前対策 １４．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」実施解説（1）痰の吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 １５．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」実施解説（2）吸引の技術と留意点 １６．高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」実施解説（3）痰の吸引に伴うケア　（4）報告及び記録 １７．喀痰吸引について根拠に基づく実施手順の確認①　口腔内および鼻腔内 １８．喀痰吸引について根拠に基づく実施手順の確認②　気管カニューレ内部	１．医療的ケアに関する個人の尊厳と自立、倫理上の留意点について学習しておく ２．医療行為にまつわる社会福祉及び介護福祉士法の改正について調べてくる ３．ヒヤリハット・アクシデントについて調べてくる ４．救急蘇生法の実施について調べてくる ５．スタンダード・プリコーションについて調べてくる ６．消毒と滅菌の違い、感染症予防に関する消毒について調べてくる ７．自身の今の健康状態把握のためにチェックした内容を挙げる ８．バイタルサインの正常値を覚えてくる ９．呼吸器官の解剖生理を調べてくる １０．呼吸のしくみについて復習してくる １１．成人と小児の呼吸の違いについて調べてくる １２．呼吸器系の感染症の原因について調べてくる １３．喀痰吸引により生じる危険の種類について調べてくる １４．喀痰吸引で用いる器具・器材について調べてくる １５．喀痰吸引時の手順と留意点について調べてくる １６．喀痰喀出しやすいケアについて調べてくる １７．喀痰吸引について根拠に基づく実施手順の確認①　口腔内および鼻腔内

教科書	最新介護福祉士養成講座１５『医療的ケア』　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（10　%）　　小テスト　（20　%）　　定期試験　（70　%）
特記すべき事項	総合病院において看護師・保健師として6年の実務経験を有する
質問・相談等の受付	

1-25

科　目	ボランティア論Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	中野清隆・塚本真由美・長谷川孝子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護の専門性は、介護施設ばかりではなく、地域・在宅福祉の動向から必要なものになっている。本演習においては、施設・地域・家族といった福祉の実践現場に接することで、社会的にアプローチすべきニーズを確認し、ボランティアの学問的知識の習得、企画立案、実施に至る福祉におけるボランティアの基本的な理解を確立することを目的とする。		
到達目標	・ボランティアにおける意義と目的を理解する。 ・地域のリーダーとして社会的にアプローチすべきことが理解できる。 ・グループワーク支援の方法を理解できる。		
学習成果の評価基準	・社会活動の意義・目的、ボランティアの意義、福祉フェア、地域デイサービス、介護者カフェが理解できる。 ・授業で積極的に質問やグループワークができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	社会活動の意義・目的を整理し、ボランティアを学術的に考えるアプローチを行う	ボランティア活動の不可欠な例をあげておく
2.	私にとって、ボランティアとは何かを考えるアプローチを行う	ボランティア体験やニュース等からボランティアの意義を事前に整理しておく
3.	ボランティア体験やニュース等からボランティアの意義を事前に整理しておく	自らの科アプローチすべき課題を考える
4.	自らの科アプローチすべき課題を考える	福祉学科の社会活動を事前に調べておく
5.	福祉現場合同イベント(福祉フェア)の企画立案	社会へ発信すべき内容をもって臨む
6.	福祉現場合同イベント(福祉フェア)の企画立案・修正演習	企画の矛盾点・課題をもって臨む
7.	福祉現場合同イベント(福祉フェア)の修正案に基づく演習	準備に必要な内容を考えておくこと
8.	福祉現場合同イベント(福祉フェア)実践	企画と実践の差異の予測と対応について予見して臨む
9.	福祉現場合同イベント(福祉フェア)実践	イベント全体との整合性を保つための全イベントの把握
10.	福祉現場合同イベント(福祉フェア)実践	効果的なチームプレーとは何かを考えておく
11.	地域デイサービス(ボランティア)の企画を通して地域を知る	地域デイサービスについて予備的な知識を得ておくこと
12.	地域デイサービスについて予備的な知識を得ておくこと	地域デイに求められるサービスとは何かを考えて臨む
13.	在宅介護者支援(介護者カフェ)の企画を通して家族へのアプローチを学習する	在宅介護者支援(介護者カフェ)の企画を通して家族へのアプローチを学習する
14.	在宅介護者支援(介護者カフェ)の実践を通して家族ニーズと支援すべき内容を理解する	介護者カフェに求められる支援とは何かを考えて臨
15.	まとめ（到達度の確認）	

教科書	「福祉小六法」「福祉新聞」「新聞各紙」「社会福祉協議会だより」、他に個別に必要な文献
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　(20%)　授業内課題　(20%)　その他【福祉フェア・地域デイ・介護者カフェ】(60%) （到達目標確認については、テーマごとに口頭で確認していく。）
特記すべき事項	中野：介護福祉士として２３年の実務経験を有しています 地域生活支援コーディネーター資格必修
質問・相談等の受付	

1-26

科　目	ボランティア論Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	中野清隆・塚本真由美・村上有希	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護の専門性は、介護施設ばかりではなく、地域・在宅福祉の動向から必要なものになっている。本演習においては、施設・地域・家族といった福祉の実践現場に接することで、社会的にアプローチすべきニーズを確認し、ボランティアの学問的知識の習得、企画立案、実施に至る福祉におけるボランティアの基本的な理解を確立することを目的とする。		
到達目標	・ボランティアにおける意義と目的を理解する。 ・地域のリーダーとして社会的にアプローチすべきことが理解できる。 ・グループワーク支援の方法を理解できる。		
学習成果の評価基準	・地域福祉の動向、地域包括ケアシステム、ボランティアセンター、地域デイサービス、介護の日、認知症支援キャラバン隊、介護福祉学会、C1グランプリが理解できる。 ・授業で積極的に質問やグループワークができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	地域福祉の動向を理解し、住民自らの支援活動の在り方を考える	地域包括ケアシステムについて予備的な知識を得ておく
2.	筑後市における新しい総合事業(地域包括ケア)の実践について学ぶ	新しい総合事業について予備的な知識を得ておく
3.	市区町村ボランティアセンターの社会的機能と課題について考える	ボランティアセンターの概要を調べておくこと
4.	地域デイサービス(ボランティア)の企画を通して地域を知る	地域デイサービスについて予備的な知識を得ておく
5.	地域デイサービス(ボランティア)の実践を通して地域を知る	地域デイに求められるサービスとは何かを考えて臨む
6.	介護啓発イベント(介護の日イベント)の企画を通して啓発企画を体験する	介護の日について調べておく
7.	介護啓発イベント(介護の日イベント)の実践を通して地域啓発を行う	重要な介護の広報啓発とは何かを考えておく
8.	介護の日イベント認知症支援・キャラバン隊(ラン伴)の実践を通して社会活動を体験する	認知症支援キャラバン隊について予備的な知識を得ておく
9.	介護福祉学会の立案と準備	社会へ向けてアピールしたい内容を考えておく
10.	介護福祉学会の運営・修正	円滑なイベント進行のために必要な備品のチェックを行う
11.	介護福祉学会の運営	主催者の活動の趣旨を再確認して臨むこと
12.	福祉人材教育(C1グランプリ)における高度なグループ企画	C-1グランプリの支援者としての意識を考えておくこと
13.	福祉人材教育(C1グランプリ)におけるインフォーマルな運営・修正	円滑なイベント進行のために必要な備品のチェックを行う
14.	福祉人材教育(C1グランプリ)におけるインフォーマルな運営	非形式が求められるボランティア活動とは何かを考えて臨むこと
15.	まとめ（到達度の確認）	

教科書	「福祉新聞」「新聞各紙」「社会福祉協議会だより」、他に個別に必要な文献
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（20%）　授業内課題（20%）　【地域デイ・介護者の日イベント・学会・C-1グランプリ】（60%） （到達目標確認については、テーマごとに口頭で確認していく。）
特記すべき事項	中野：介護福祉士として２３年の実務経験を有しています 地域生活支援コーディネーター資格必修
質問・相談等の受付	

1-27

科　目	レクリエーション援助法Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	原田弘美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業では（公財）日本レクリエーション協会公認指導者レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指します。レクリエーション活動の楽しさをベースに、信頼関係を深め、相互作用を起こし、集団をまとめていく知識と技術を体験をとおして学びます。		
到達目標	レクリエーション支援を提供する際の基礎的な技術を身につけ、コミュニケーションのきっかけとなる「アイスブレーキング」のプログラムが提供できる。		
学習成果の評価基準	レクリエーションを支援する際の基礎技術を活用し、楽しく豊かな人間関係を築きながらプログラムを実施できる。また、実施した内容をふりかえり改善点を見いだせる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	ガイダンス　　レクリエーション援助とは	シラバスと教科書34～36ページまで目を通し、講義後は学んだ内容を整理する。
2.	レクリエーション支援の方法　ホスピタリティ	教科書29～33ページまで目を通し、講義後は学んだ内容を整理する。
3.	レクリエーション支援の方法　アイスブレーキング	教科書38～42ページまで目を通し、講義後は学んだ内容を整理する。
4.	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　～高齢者対象～	高齢者を対象にしたレクリエーションが行われている現場について調べ整理する。
5.	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　～こども対象～	こどもを対象にしたレクリエーションが行われている現場について調べ整理する。
6.	レクリエーション活動の習得Ⅰ　季節を楽しむクラフト	ラフトがもたらす価値や楽しみについて整理する。
7.	レクリエーション活動の習得Ⅱ　ゲーム	ゲームがもたらす価値や楽しみについて整理する。
8.	レクリエーション活動の習得Ⅲ　　歌を活用したプログラム	歌を活用したレク活動がもたらす価値について整理する。
9.	レクリエーショ活動の習得Ⅳ　脳を活性化するレクリエーション活動	脳を活性化プログラムがするもたらす価値や楽しさについて整理する。
10.	レクリエーション活動の習得Ⅴ　ニュースポーツの体験	ニュースポーツとは何か？価値や楽しみについて整理する。
11.	レクリエーション活動の取得　グループで楽しむレクリエーション活動	グループでレクリエーションを行う意味や楽しさについて整理する。
12.	レクリエーションプログラムの立案　アイスブレーキングのプログラムの企画	参加者の気持ちに寄り添った進め方についてプログラムを整理する。
13.	レクリエーションの支援演習Ⅰ　　アイスブレーキングのプログラムの実施	演習に向けての準備を行う。実施後、よかった点と改善点について整理する。
14.	レクリエーションの支援演習Ⅱ　　アイスブレーキングのプログラムの実施	演習に向けての準備を行う。実施後、よかった点と改善点について整理する。
15.	講義のまとめ	これまでの講義をまとめ、ふりかえる

教科書	楽しいをつくる　レクリエーション指導者ハンドブック　福岡県レクリエーション協会
参考書	楽しさを通した心の元気づくり　日本レクリエーション協会
学習成果の評価方法	授業内課題　40%　　授業内発表　60%
特記すべき事項	レクリエーションインストラクター資格必修
質問・相談等の受付	

1-28

科　目	レクリエーション援助法Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	原田弘美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	豊かな人間関係を生みだす支援者の基本的な考え方や信頼関係を深め、相互作用を起こし、集団をまとめるプログラムの進め方を学び、レクリエーション活動を目的や対象にあわせて活用する企画力と、振り返りをとおしてレクリエーションの支援力を身に着けます。		
到達目標	目的や対象にふさわしいレクリエーション活動を選定しプログラムを企画し実施することができる。また、実施したプログラムの成功点や改善点をふりかえることができる。		
学習成果の評価基準	テーマや対象に合わせたレクリエーション・プログラムの企画、実施。 また、実施したプログラムを振り返りシートにまとめ提出する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	レクリエーション支援の方法	シラバスを確認し、ホスピタリティの示し方についてまとめておく。
2.	自主的・主体的に楽しむレクリエーションの展開方法	ハードル設定・CSSプロセスについて整理する。
3.	レクリエーション支援演習　リスクマネジメントの方法	レクリエーション活動中の事故につて調べる
4.	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　～一般対象～	基本的なレクリエーションの展開について整理する。
5.	プログラムの立案Ⅰ	これまで体験したレクリエーション活動についてまとめておく。
6.	プラグラムの立案Ⅱ	これまで体験したレクリエーション活動についてまとめておく。
7.	レクリエーション支援の実施Ⅰ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
8.	レクリエーション支援の実施Ⅱ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
9.	レクリエーショ支援の実施Ⅲ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
10.	レクリエーション支援の実施Ⅳ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
11.	レクリエーション支援の実施Ⅴ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
12.	レクリエーション支援の実施Ⅵ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
13.	レクリエーション支援の実施Ⅶ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
14.	レクリエーション支援の実施Ⅷ	指導案にそった演習が行えるよう準備を行う。評価を整理する。
15.	講義のまとめ	これまでの講義をまとめ、ふりかえる

教科書	楽しいをつくる　レクリエーション指導者ハンドブック　福岡県レクリエーション協会
参考書	楽しさを通した心の元気づくり　日本レクリエーション協会
学習成果の評価方法	授業内課題　40%　　授業内発表　60%
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-29

科　目	レクリエーション論	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	原田弘美・吉田澄子・河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	レクリーション運動の理念、地域社会や社会福祉などの領域での課題と展開の方法、及び心の元気づくりを促進するレクリエーション・インストラクターの役割についての基本的な理解を深める。		
到達目標	レクリエーションを通してもたらされる「楽しさ・心地よさ」は人々の成長や生きがいをうみだし、豊かなライフスタイルづくりをめざす運動であることを理解する		
学習成果の評価基準	レクリエーションの基礎知識を取得し、授業のなかでおこなう小テストや課題で6割以上の解答ができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	レクリエーションとは	シラバスと教科書4～８ページまで目を通し、講義後は学んだ内容を整理する。
2.	第1章レクリエーション概論	教科書10～17ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
3.	第2章楽しさを通した心の元気づくりの理論Ⅰ　心の元気づくりの理解	教科書20～28ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
4.	楽しさを通した心の元気づくりの理論Ⅱ　ライフステージと心の元気づくり	教科書29～32ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
5.	楽しさを通した心の元気づくりの理論Ⅲ　心の元気づくりと地域のきずな	教科書33～35ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
6.	第1章と第2章のまとめとふりかえり　小テスト	これまでの講義をまとめ、整理する。
7.	第3章　レクリエーション支援の理論Ⅰ　コミュニケーションと信頼関係	教科書38～42ページまで目を通し、講義後は学んだ内容を整理する。
8.	第4章　レクリエーション支援の方法　Ⅰ　ホスピタリティ	教科書58～61ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
9.	レクリエーション支援の方法　Ⅱ　気持ちをひとつにするコミュニケーション技術	教科書62～65ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
10.	第3章　レクリエーション支援の理論Ⅱ　良好な集団づくり	教科書44～49ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
11.	第4章　レクリエーション支援の方法Ⅲ　良好な集団づくりの方法　アイスブレーキング	教科書66～69ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
12.	第3章　レクリエーション支援の理論Ⅲ　自主的・主体的に楽しむ力を育む理論	教科書50～55ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
13.	第4章　レクリエーション支援の方法Ⅳ　自主的・主体的に楽しむレク活動の展開法	教科書70～77ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
14.	レクリエーション支援の方法Ⅴ　自主的・主体的に楽しむレク活動の展開法	教科書78～82ページまで目を通しておくこと、講義後は学んだ内容を整理する。
15.	講義のまとめ	これまでの講義をまとめ、ふりかえる

教科書	楽しさを通した心の元気づくり　日本レクリエーション協会
参考書	楽しいをつくる　レクリエーション指導者ハンドブック　福岡県レクリエーション協会
学習成果の評価方法	小テスト　60%　授業内課題　40%
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	